



特集 スポーツボランティアの形

多種目・多地域をカバーするスポーツボランティアNPO組織 ~ 「うつくしまスポーツルーターズ」

「前例がないので苦労することがあります」、約1時間、設立の経緯からさまざまな活動、現状や今後の課題などについて話
途中で「うつくしまスポーツルーターズ」の事務局を担当する斎藤さんから何度もた言葉です。

いただいたパンフレットによれば、「ルーターズ」とは「熱烈に応援する人々」、「ささえる人々」の意味を持つ英語であり、
「うつくしまスポーツルーターズ」(以下、ルーターズ)は、自らスポーツを楽しむとともに、福島県のようなスポーツシー
ンをささえる「スポーツボランティア」の基地(ベース)となるべく、2005年春に誕生しました、とあります。さらにその
原点は2004年9月に開催された「スポーツマスターズ全国大会」で活動した1,300人にもものぼるボランティアの中の
有志が、組織をぜひ残したいと考えたことにあるということでした。多くの人の協力があり発足した「スポーツルーターズ」、
活動のスタート段階では福島県の広域スポーツセンター内に事務所をおき、活動資金をはじめとするサポートを受けられたと
で、「ボランティア活動を依頼する組織・団体とルーターズとの関係作りがスムーズにすすんだことが大きかった」と斎藤さん
はいいます。

福島県は総面積約14,000km²、北海道・岩手に次ぐ広さを持ち、中核となる都市だけでも県庁所在地の福島のほか、
中央に郡山市、太平洋側にいわき市、そして西側に会津若松市があります。このため県内各地で開催されるスポーツイベ
ントのサポートのためには、必然的に県内各地にボランティア登録者を増やす必要があります。2007年4月、従来の行政から
の支援に依存するのではなく、「会費」・「事業」・「助成金」などをバランス良く収入を確保するためにNPO法人として自立す
ることをめざし、事務所を移転するとともに、法人格取得の準備に入り11月に法人格を取得したのです。この結果、ボラン
ティアとして活動する活動会員は年会費として2千円を収めることになったのです。こうした変化にともない、2006年1
月末で433名いた登録者のうち会員として会費を納入した人が約150名、約60名が退会、残り約200名は活動希望す
るときに会費を支払う登録会員という状況に現在ではなっています。これまでも「実質的活動者」だった150名の会員はよ
り活発に活動に参加しており、会費徴収による大きなマイナスはないということですが、活動の幅を広げるためにもさらなる
会員を増やす努力は続けられています。

(注) 活動会員のほかに、年1万円を納め運営に直接関わる運営会員、年2千円の会費で活動に賛同し支援する賛助会員があります。

具体的なスポーツボランティアの活動をみると2006年度では年間約30のイベントに、延べ562名が参加しています。
特徴的なものをあげると、Lリーグのマーゼのホームゲームのサポート(6試合)に110名が参加、人気が高かったとい
う「リゾートトラストレディスゴルフ」に100名が参加、他にプロ野球、ウォークラリー、ワールドカップスキーなど種目
も開催地も本当に様々です。「最初はかなりの時間をかけて事務局スタッフもかけていましたが、現在はリーダークラスの経
験豊富な方が各地に育ったので楽になりました」と斎藤さんは笑います。イベントがかわれば活動内容も変わります。もぎり
や案内、準備や撤去作業のてつだいもあれば、給水や計測を依頼されることもあるそうです。それも、活動を始めたころに多
かった駐車場を含めての警備的なものから、何年か活動する中で信頼関係を作れたことでより重要な活動を任せられると
いうのです。こうした変化はボランティアの待遇面にもおきています。事務局では依頼団体に対し特にボランティアの待遇に
ついて注文をつけることはほとんどないといいます。ですから、イベントによっては交通費を支給されることもあれば何もな
いこともありますし、弁当すらでないイベントもあるということでした。募集の段階で条件・待遇を明示していますのでそれ
でもやりたいという人が集まるのだそうです。例え弁当が出なくても一生懸命にルーターズのユニフォームを着て活動する姿
に感謝し、翌年には弁当が支給されることになったこともあるといいます。「頼まれなくても慣れているので率先して手伝い、
結果としてルーターズの評判がアップしていること、それが何よりうれしい」という言葉に、活動の歴史を感じました。

ルーターズの活動の中には、会員向けの研修・講座もあります。2006年では県内4ヶ所での「スポーツボランティア基
礎講座」に124名が参加したほか、生涯スポーツコンベンションに200名など6つのイベントに453名が参加していま
す。今後もこうしたボランティアの育成、ボランティアスキルの強化を重要視していて、そのために「ボランティアのハンド

ブック」を作成するとのことでしたし定期的に研修会を開催する予定ということでした。また冬にはボランティアをまとめ主催者との橋渡しを行う「ボランティア・リーダー」のための「リーダー研修会」の開催が決定しています。リーダーが順調に育つことは、活動の基盤となる将来の支部作りに向けてもきわめて大事なことなのです。こうした活動については、NSVA（日本スポーツボランティアアソシエーション）との関係も大きな支えとなっているようです。

そのほかの今後の課題や取組みの中では、「地域のイベントなどにルーターズとしてブースを出すなどして、認知を高めることで仲間を増やしたい。」ということでした。頂いた季刊で発行されている「うつくしまスポーツルーターズかわら版」の最新版の中にも「会員増キャンペーン中」として、会員から活動の楽しさを伝えるメッセージを募集したり、いきなり会員になるのは、という人のための「お試し活動」への参加者募集の記事が掲載されていました。また、スポーツ団体だけでなくさまざまなイベントのボランティア向け研修の運営や講師派遣などを積極的に受託し、組織としての知名度や信頼性を高めることにも取り組むということでした。

通常スポーツのボランティア組織は運営する組織と一対一の関係です。これに対し、多地域で多種目のサポートをすることは関係する多くの団体やスポーツ行政組織、各種会員などのネットワークの維持、拡大が何より大切になり、そのための事務局としての仕事は気の休まる暇もないはず。「大変ですね」という問いかけに斉藤さんは笑いながら「前例がないので」という冒頭の言葉を繰り返し、だからこそそ日々新しいことに取り組んでいるという「楽しさ」を感じている、とのことでした。プロスポーツがないからこそ、現在のスポーツボランティアの形が生まれた。それも確かに説得力があります、しかし、この形でやろうという人々の「思い」、それが無ければ今はありません。昨年から法人格を取得して自立の道を歩き始めた「ルーターズ」の今後が楽しみです。

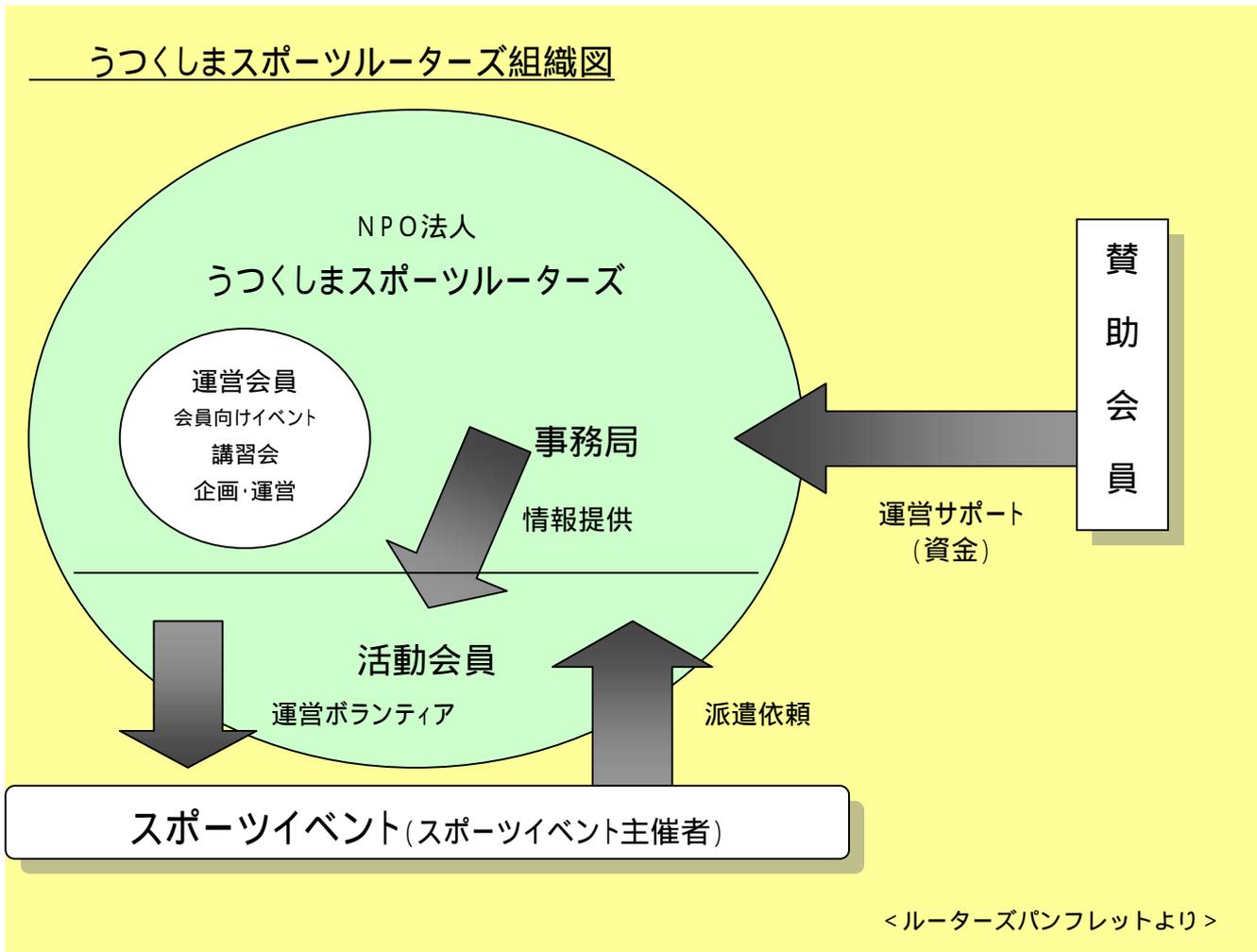
うつくしまスポーツルーターズ・ホームページ

<http://www.rooters.jp>

(関連) 日本スポーツボランティア・アソシエーション・ホームページ

<http://www.nsva.or.jp>

うつくしまスポーツルーターズ組織図



伝える努力と伝わるもの ~ ボランティアホームページから見えるもの

スポーツのボランティア活動は原則として無報酬であり、時として悪天候や長時間に及ぶ活動もあり継続して参加してくれる人をどのようにして増やしていくかについては、さまざまな工夫が必要となります。そのひとつとして時代を反映しそれぞれのホームページにはかなり多くの情報が掲載される傾向があります。ここでは、数多くの活動の中から特徴のあるものを紹介したいと思います。

< 各チームや団体のボランティアホームページは、SVニュースの毎号の最終ページに、スポーツの種類別に掲載中です >

【 ボランティアのとらえ方 】

現在スポーツボランティアの活動をみた場合、その多くはゲームやイベントの当日にサポートする、というのが大半です。継続的に活動していくことで観客や運営スタッフそしてボランティア仲間との良好な関係が作られているのです。しかし、イベントのサポート以外にも「支える」とはもっとあるはず、というのがサッカー「湘南ベルマーレ」の考えるボランティアです。

湘南ベルマーレボランティアページ

<http://www.bellmare.co.jp/bellmare/view/s.php?a=820&PHPSESSID=28a94cfbd77c4783712c7e8c2e52e8aa#club>

まず目につくのが「サプライボランティア」、クリーニングや消耗品の提供などでチームをサポートしているということで、スポンサーとは違う継続的で、より密着したボランティアとなっているようです。「ゲームボランティア」については、他の多くの組織の活動とあまり違いはないようです。そして「クラブボランティア」は、地域のイベントなどで活動する「企画委員会」と、さまざまな情報発信し支援する「情報委員会」に分かれています。より参加しやすいメニューを作ること、そのことを実践している活動ではないかと思えます。こうした傾向は今後トップリーグをめざすチームにも広がっています。

(参考) 東北社会人リーグ グルージャ盛岡ボランティアページ <http://www.grulla.jp/boranteia.html>

北信越リーグ サウルコス福井ボランティアページ <http://www.saurcos-fukui.jp/volun/>

【 プロスポーツと地域スポーツのボランティア組織 】

一方で、このSVニュースでも今後ご紹介する予定の総合型スポーツ(クラブ)の振興のために、行政やスポーツNPOなどがボランティアを募集し、幅広いサポートを展開する流れも増えているようです。その一例として「スポーツボランティアMITO」を紹介しましょう。

スポーツボランティアMITOボランティアページ

<http://www13.ocn.ne.jp/maas/sportsvolunteer.htm>

ここでは「地域社会やスポーツ団体、クラブ、各種スポーツ教室、各種スポーツイベントなどにおいて、個人の自由意志に基づき、その技能や時間などを進んで提供し、社会に貢献することを目的とする。」として、スポーツ教室の指導やアシスタントをする「指導ボランティア」、通訳や医療などを担当する「専門ボランティア」、そしてイベントのサポートを主に担当する「一般ボランティア」が募集されています。ただし、水戸にはサッカーの水戸ホーリーホックのボランティア組織も別にあるため、まだスポーツボランティアへの参加者が限定されている状況においては、他の地域同様どのように組織同士の連携をはかるかも課題となると考えられます。

(参考) 水戸ホーリーホックボランティアページ <http://www.mito-hollyhock.net/volunteer/index.html>

【 特技や特徴を生かして 】

次にここ数年で四国九州や北信越地域に誕生した野球の独立リーグ、ここでは種目の性格上設営やボールの回収、ファールボールへの注意喚起などの活動がありますが、ボランティアの持っている能力を活用するという意味で興味をひいたのが「富山サンダーバード」の募集の中にある「皆さんの特技・特徴を生かした活動(例:絵描き/写真撮影)」というもの、これは、活動の範囲を広げるという意味でも、参加する側からいえば好きなことや得意とすることでサポートできることで「楽しさ」を得やすくなるということで、注目されるものだと思います。

富山サンダーバードボランティアページ <http://www.t-thunderbirds.jp/application/staff.html>

【 リーグとしてボランティアに目を向ける 】

ボランティアの社会的な認知が乏しい中で、さまざまなスポーツで活動するボランティアはなかなかその活動を評価してもらうことはありません。確かに、種目やチームごとにボランティア活動をどう位置づけるかは同じではありませんし、運営規模の違いは当然交通費の支給など待遇の違いにつながります。けれど、その差をばかりを考えては何かわかりません。せめて、良いものは良い、特色のある活動や貢献などをみる視点で、リーグとしてボランティアをみてほしいと考えていました。そうした中ではプロバスケットボールのbjリーグが一步先行し、毎年チームアシスト賞を設けて表彰していることは素晴らしいことだと思います。

bjリーグチームアシスト賞ブログ <http://bjleague.livedoor.biz/archives/2008-04.html> 4月17日のブログに掲載

大分ヒートデビルズボランティアページ <http://www.heatdevils.com/booster/dbp.html>

手作りの活動～地域に根づくボランティア文化

大分トリニータができて新しく地域に根づいたものに、ボランティア文化がある。リーグは「地域と共に」を理念の中に採り入れている。運営などについても、業者にすべて委託するのではなく、地域の人々に参加してもらって、共にクラブを支えている。

トリニータの最近のボランティア登録数は約200人で、常時の参加者は約100人。ユニホームは、オレンジ色の上着とTシャツだ。チケットをもぎったりするほか、機材の設営、スタジアム内の清掃など、仕事は幅広い。開門2時間前から作業が始まり、試合終了後も1時間は後片付けが続く。

活動の合間の控室では、地域の話題でおしゃべりが始まる。「自宅に花が咲いたので持ってきた。トイレに飾ろう！」と盛り上がり、九石ドームでの試合の日には、スタジアム内のあちこちに、一輪挿しの花が置かれる。花瓶はペットボトルを切って、トリニータのロゴを張り付けた手作りだ。

このような取り組みは、リーグの中でも唯一の活動といえる。セリエA、プレミアリーグなど世界中のサッカー場を訪れたが、トイレに花があるスタジアムなんて大分だけだった。花と緑と青い空のある大分でしか表現できない「おもてなし」だろう。

時々開催される「日本代表戦」などについても、スタジアムの施設や運営を熟知したボランティアの人々がいるからこそ、安心して大分に誘致できるのである。

ボランティアの年齢も20代～70代までと幅広い。試合が始まると手があくので、控室でトリニータのTV映像を横目に、楽しくおしゃべりする。近所の話題や親子の話など、地域のコミュニティーがスタジアムへ広がっている。

スポーツは、「施設」に加えて、「する人」「見る人」「支える人」がいて成り立つ。ボランティアはスポンサーと並んで、チームをしっかりと支える軸でもある。

現在J1とJ2を合わせて33クラブあり、各ボランティアを結ぶネットワークも存在する。「 」という問題があるのだけれど、そちらではどうしているの？」と問いを投げかけると、各クラブのボランティアから一斉に返答がある。そういったデータを整理して、ノウハウも蓄積されていく。すべて手作りだ。

そして、1年に1度、こうしたボランティアが集まる会議がある。「ホームタウンサミット(古里会議)」と呼ばれ、全国のボランティアが集まって、皆で日頃の活動内容を話し合う。始まってもう8年になるが、今年は山形で開催される。いずれ大分でも開催し、大分の良さを存分にPRしたいと思っている。

(大分高専サッカー部顧問 宮明 透)

上記のコラムは朝日新聞大分版に掲載されたものを著者の承諾をえて掲載させていただきました。

第13回ヒロシマ国際ハンドボール大会～強豪ブラジルを迎えて

オリンピック前の合宿を行ったハンドボールのブラジル男子代表が、7月25日～27日に開催された「第13回ヒロシマ国際ハンドボール大会 兼 2008 ジャパンカップ広島大会」に参加しました。大会はブラジル代表の他、日本代表、韓国軍体育部隊、湧永製薬レオリックの総当たりリーグ戦で行われ、広島市スポーツボランティアも活動しました。

ボランティアは場内整理係(観客の誘導)、ドリンク係(ベンチ後方でドリンク補充)、観客受付係(もぎり等)、駐車場係(場内の誘導・整理)を担当し、間近に迫った大きなスポーツイベントを身近に感じる機会となりました。

なお、合宿中には、代表コーチが地元中学生へ指導する一日も設けられました。

(広島市スポーツボランティア 亀田 武志)

第13回ヒロシマ国際ハンドボール大会ホームページ

<http://www.handball.jp/games/2008/hiroshima/hiroshima.htm>

湧永製薬「ヒロシマ国際ハンドボール大会」応援御礼ブログページ

<http://www.wakunaga.co.jp/handball/topics/topics/2008072953.html>

FROM 東京

日本スポーツボランティア・アソシエーション<NSVA>

今年2月の東京マラソンでは約3万人のランナーに対し約1万2千人のボランティアが活動しました。それだけの規模のイベント運営のためには、担当ごとのリーダーの役割が重要となります。そのためリーダー育成のための研修を担当しているのが笹川スポーツ財団であり、それに協力しているのが「日本スポーツボランティア・アソシエーション」です。その定款の設立目的には次のように記載されています。

「この法人は、今後の日本が豊かで安心できる社会を維持する上で個人又は団体の各種ボランティア活動が一層の発展を遂げることが重要であるとの認識に立ち、スポーツボランティアと名づけた「スポーツにかかわるボランティア」の人々の協力により、広く一般市民に対して、スポーツボランティアの育成・派遣、スポーツイベントの企画・開催、公共スポーツ施設の管理・運営などスポーツの振興を図る事業を行うことで、生涯にわたりスポーツを楽しみ、健康に暮らせる社会の実現に寄与することを目的とする。」

今、全国に広がりつつあるスポーツのボランティア活動、規模として最大のイベントの支援を通じてNSVAも発展する可能性があります。詳しくは下記のホームページをご覧ください。また、「日本スポーツボランティア学会」が編纂した「スポーツボランティア・ハンドブック」(明和出版/本体価格1,600円)にも協力しています。

NSVAホームページ

<http://www.nsva.or.jp/index.html>

FROM 山形

全国ホームタウンサミット

自分たちの住む地域にJクラブがあることを大切に、クラブをさまざまな形でサポートするために全国のJリーグクラブの支援組織が持ちまわりで開催しているのが「全国ホームタウンサミット」です。第1回は1999年に平塚市で開催され、昨年までに8回の歴史が刻まれています。毎回さまざまなテーマについて基調講演や意見交換が行われ、クラブ関係者はもとより地域の商工関係者・行政・後援会・ボランティアなど多様な立場の人々が参加しています。今年は山形での開催が決定しています。

第8回ホームタウンサミット in 柏 報告

<http://www.j-league.or.jp/100year/report/?c=all&n=kashiwa&code=00000161>

全国ホームタウンサミット旗の引渡し

<http://www.hometown-tendo.jp/news/20080624/index.html>

FROM 掛川

全国スポーツクラブ会議

2007年から全国スポーツクラブ会議というものが年1回開催されています。今急激に誕生し増えている「総合型スポーツクラブ」、そこに携わる人々の情報の共有や課題をともに考え何より交流の場としていこうという姿勢がみられます。今年の会場は静岡県の掛川市、参加者は約250名、既に報告書もアップロードされていますのでご覧ください。こうした企画は短い時間の中で多くの人が集まるために、なかなか結論を出すことは難しい部分もありますが、最も大切なことは人の出会いの場として最適であり、「つながり」が残り、そこから「交流」が始まる素晴らしさがあります。経費や運営の労力というテーマはありますが、いかに継続していく仕組みを作ることができるかがポイントになると思います。

全国スポーツクラブ会議の概要

<http://www.sports-center.pref.shizuoka.jp/pdf/200524.pdf>

全国スポーツクラブ会議 in 掛川 報告書

http://kakespo.com/news/files/080710/sc2nd_report.pdf

掛スポ ボランティアレポート

<http://kakespo.com/event/report/08052425/08052424.pdf>

さすがに総合型のクラブは数が多いため、全国各地の参加クラブのホームページにも報告が掲載されています。身近なクラブのページにも注目してみてください。

SV2004

活動報告

女子ソフトボール
北京オリンピック壮行試合
ボランティア
2008年7月25日・26日・27日



世界規模のスポーツイベントというものは不思議なものです。もし隣国である中国でオリンピックがなければ、「女子ソフトボールチーム壮行」の国際大会が仙台で開催されることはきっとなかったでしょうし、北京に向かうまでオランダチームが仙台で合宿するというのも無かったのではないのでしょうか。もちろんこれまで何年も日本代表を仙台に招きイベントを続けてきた人々がいたことも忘れるわけにはいきませんが。

7月25日から27日までカナダ・オランダ・日本の各代表による日本代表の壮行試合がありました。その中で初日はエキシビジョンとして「オランダ」と「カナダ」の試合があり、北京の優勝候補の一角に上げられているカナダがきびきびとした動きでオランダを圧倒しました。霧状の雨が降り万全のコンディションが良くなかったのが残念でしたが・・・

さて、今回のボランティア活動は仙台のスポーツイベントでは、当たり前前の光景となりつつある「エコステーション」のサポート、きれいなプラやきれいな紙をはじめ7種類での分別でした。3日間という期間はあっという間でしたが事故もなく笑顔で終わったことを参加していただいた仲間へ感謝したいと思います。さすがに日本代表が登場した土曜・日曜は大勢の観客が来場し盛り上がりました。代表戦ということで宮城県外からの高校生なども多く、彼らからみればソフトボールの代表選手は大スターという印象でした。そのスター選手を身近に見て応援したので、ますます北京オリンピックの応援にも熱が入ることでしょう。

コンコース上の二箇所に設置されたエコステーションでの、ごみの分別の呼びかけと回収のボラ活動では18時からのゲームでしたので弁当類とペットボトルなどの飲み物の容器が多かったようです。仙台市内の人々であれば分別自体はもともと家庭の中でもやっていますし、仙台を拠点としているプロスポーツの会場でも普通のことになっていますので多少の分別への認知はあると思います。しかし、市民球場に来場した方々の多くはレジ袋にさまざまなものを一緒にして持ってきました。その意味では、単に分けることを求めるだけではなく、リサイクル率を高めるなど目的を示して協力をもとめる体制を作る必要があると感じました。ともあれ、多くの方が快く活動に協力してくれました。そして日本チームの快勝、それが何よりのお土産です。

<参加者：25日11名 / 26日8名 / 27日12名 合計31名>



第2回 スポーツボランティア入門説明会 7月27日(日)

本年2月の第1回に続き今年2回目となる「スポーツボランティア入門説明会」が7月27日旭ヶ丘の青年文化センターにて開催されました。当日は15名の参加があり、スペシャル・オリンピックス日本・宮城やグランディ・21ボランティアをはじめプロスポーツのボランティアや間近に迫ったさまざまなイベントの募集情報やその活動について紹介しました。こうした企画を通じて少しでも人のつながりが生まれ、スポーツに関わるボランティアの認知が高まればと思います。





SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)
準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円
お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)
または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)
申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004
レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)
メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469
申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

女子サッカー、なでしこリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

【日テレ・ベレーザ】東京ヴェルディボランティアページ <http://www.verdy.co.jp/club/volunteer/>

【アルビレックス新潟レディース】ボランティアページ <http://www.albirex.co.jp/contents/support/volunteer.php>

【ジェフユナイテッド市原・千葉レディース】ボランティアページ

http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=3448

【清水第八ブリアデス】ボランティアページ <http://www.sdh-1978.com/>

【鹿児島鴨池FCアサヒナ】アシスタントクラブページ http://www.ocn.ne.jp/~asahina/12_asi.html

【東京電力女子サッカー部 マリーゼ】ボランティアページ <http://www.j-village.jp/staff/index.html>

◆ 以下のチームのボランティアページはみつけれませんでした。

浦和レッドダイヤモンズ レディース

A S エルフェン狭山FC

大原学園 JaSRA 女子サッカークラブ

ルネサンス熊本フットボールクラブ

伊賀フットボールクラブノア

バニーズ京都サッカークラブ

TASAKTI ペルーレFC

スペランツァFC高槻

INAC レオッサ

福岡J・アンクラス

岡山湯郷 Belle

(注意) 内容は08年8月05日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

宮明 透

浅見 圭一

斎藤 道子

佐藤 磨美

亀田 武志

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

新書紹介 「サッカーのない人生なんて！」 著者 増島 みどり ベースボール・マガジン社新書

イベントの規模が拡大し、多くの人に関わるようになる中で同じレベルをしっかりと維持をする、気持ちを途切れさせず継続する。それが16年ともなると感嘆に値します。この新書に登場する鹿島アントラーズボランティアの方は、オフシーズンの事務的なサポートも含めて「自分たちも試合の一部だと」という気持ちで活動しているといいます。もちろん全てが順調なわけではなく、必ずどこでも経験するであろうボランティアの減少や世代交代に頭を悩ませたり、せっかくの優勝の瞬間を一度も生で観戦できないという現実もあります。しかし、「ボランティアの人数という面積は減ったが、その代わり深さが生まれた」それが活動の原動力と彼はいうのです。

まえがきの最期に「ボランティアになろう」というコラムがありました。基礎的な活動を紹介した上で大宮アルディージャのボランティア活動の報酬が記載されていました。「夢と感動」、そうなのです。この気持ちを忘れずに持ち続けること、それはきっと人生においてもとても大切なことではないでしょうか。

編集後記

今年も暑い季節を迎えました。冬の寒さも時としてつらいものですが炎天下での活動も年齢とともにつらくなってきました。こうしてみるとボランティア活動も体調管理や体作りが大切だと痛感します。基本は個人責任、その原則の上で、ボランティアの体調の低下を防止するために、この時期であればこまめな休憩の設定や、自由に取得できる飲み物の準備、万が一の場合の救護体制については、イベントの運営者に配慮を求めたいものです。本来は、登録時に個人情報の問題はあるにせよ、参加してくれるボランティアの健康面の質問なども必要な時代になるのでは、そんなことも思っています。元気でなければ楽しく活動することはできません。くれぐれも無理はしないようにしたいものです。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp